

神奈川県立山北高等学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催しました。

会議名称	令和7年度 山北高等学校 第3回 学校運営協議会
開催日時	令和8年3月2日(月) 15:30~16:50
開催場所	山北高等学校 A棟1階第1応接室
出席者	有識者、関係行政機関の職員、地域住民、保護者、当該県立学校長と職員
会議資料	1. 令和7年度学校評価報告書 2. 第2回書面開催の結果報告
有識者による評価 (第三者の視点)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 探究学習を通して、生徒たちがPDCAサイクルのプロセスを学んでいる。 ・ 生徒たちの活動に対する地域の方からのフィードバックがあり、大変良かった。 ・ 支援の必要がある生徒への対応策を講じつつ、生徒が興味を持てるような授業づくりに引き続き取り組んでほしい。 ・ 目に見える部分で進路を決める傾向があり、施設や制服、行事などに関心が集まっている。
議事録	<p>(1) 令和7年度学校評価報告書(実施結果)について</p> <p>○学習支援グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入学者数減少と共に、生徒間の学力差も広がる中、全生徒が意欲的に学習する授業づくりに取り組んできた。工夫の一つとして協働する時間を多く設けた。また、学習習慣の確立を支援してきた。 ・ 教員間の研修として、いかに生徒の学習意欲を高めることができるかをテーマに、研究授業を実施した。 <p>○生活支援グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 盗難、暴力行為等、重い生徒指導事案が発生する中、未然防止策として、身だしなみ指導、校内巡回、マナーアップ週間に取り組んできた。 ・ 年2回のサポートブック、年3回のいじめアンケートを実施すると共にSC、SSWと連携し、支援を必要とする生徒、家庭に対応してきた。 <p>○生徒会指導グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員に頼らず、生徒が自ら考え、行事を運営する姿勢をサポートしてきた。 ・ アルバイト等、校外に関心が向いている生徒も多々いる状況において、生徒をどのように部活動や学校行事へ導いたら良いか、模索してきた。 <p>○キャリア教育グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本校は小規模校であり、教員数が少ない。しかし、進路は多様であるため、外部資源の活用が欠かせない。小論文指導等において、効果的に業者からのサポートを利用した。 ・ 進路実現に向けた取組のスタートを早めるために、2年次から企業や大学による進路ガイダンスを実施してきた。 <p>○広報連携グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町から支援を受けるばかりではなく、生徒が町へ貢献する機会を得ることができた。町からイベントへの参加要請を頂くなど、町から頼られる存在になってきたと実感した。 ・ 生徒の活動が、未来探究の授業時間だけでなく休日や放課後にまで及び、積極性が窺えた。生徒が楽しみながら地域の方と共に活動する時間は大変有意義であった。 ・ 幼稚園、小学校との協働においても生徒たちの主体性が感じられた。 <p>○学校運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 働き方改革の一環として、校務DX、電話対応の制限、ペーパーレス化などが行われた。また、オフィス改善により、スペースの有効活用が促進され、業務改善に繋がった。さらに、業務負担の軽減化に向け、職員の業務分担を見直す必要がある。 <p>(2) 第2回書面開催の結果報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3年生が扱ったテーマを1,2年生が引き継ぐ取組が見られるようになった。 ・ 活動が生徒間の調べ学習ではなく、地域の方と共に楽しみながら進める取組となり、生徒の自信にも繋がった。 ・ この山北町をテーマにした学びが「総合的な探究の時間」という授業の中に留まらず、生徒たちのこれからの生き方に影響を与える存在であってほしい、という願いが学校、地域で共有されている。 <p>(3) 委員から意見聴取</p> <p>○関係行政機関の職員(有識者)より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考えたことを実践しようと試みたが、実現が不可能であることに気づき、どのようにしたら課題を解決できるか考える。生徒たちは探究学習を通して、この思考のプロセスを学んでいる。社会に出たら、このような状況に多々、直面する。 ・ 生徒たちの活動に対して地域の方からのフィードバックがあった点が、大変良かった。 ・ 近年の大学入試では、小論文や面接で受験する学生が増加している。山北高校では進路指導において、どのような対策をしているのか。 ⇒業者による進路講演会や夏季休業中の講座を通して、表現力や書く能力を高める指導に力点を置いている。これらの指導が、公務員志望から変更した生徒を含む50名を超える企業への就職希望者の進路決定において成果を上げた。(キャリア教育グループより)

・校内のDXとして、最も効果的なものは何か。

⇒1つは、朝の打合せ時に利用するTeamsである。連絡事項が短時間で効率よく伝わり、記録として残る。また、職員会議のペーパーレス化により費用、印刷業務が削減された。外部からの電話対応や事務的な業務に費やす時間が短縮され、授業等に手厚く対応するゆとりが生まれている。(教頭より)

○関係行政機関の職員より

・これまでも地域貢献活動(町の清掃活動)で中高生が協働してきたが、今年度のニュースポーツを通じた子供たち同士の交流は、大変有意義な体験となった。

・地域との協働による報告会で行われたプレゼンテーションは中学生の探究学習への関心を高め、良い手本となった。

・マチコミからすぐーへ移行し、利便性の高さが保護者からも評価されている。

○地域住民より

・高校生徒による山北ニンニクの活用を支援していきたい。山北野菜クラブからのニンニク提供量を増やし、活用範囲を広げてもらいたい。

○保護者より

・授業者による個々のICT活用だけでなく、山北高校としての具体的な取組があるとよいと考える。リモートによる国際交流や子供が不登校の家庭へのオンラインで授業等の活用は行わないのか。

⇒不登校への対応として、オンライン授業を活用している進学校もあるが、活用には、高い学習意欲が認められる場合等、条件がある。本校でもオンライン授業や通信教育等での対応の準備はしているが、現時点で、本校では条件を満たしていない。(校長より)